

## 平成30年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

### 佐賀市立西与賀小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

#### ■ 調査期日

平成30年4月17日(火)

#### ■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

#### ■ 調査の内容

##### (1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A、算数A、理科〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B、算数B、理科〕
<ul style="list-style-type: none"><li>身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容</li><li>様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容</li></ul>

##### (2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況、児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

#### ■ 調査結果及び考察について

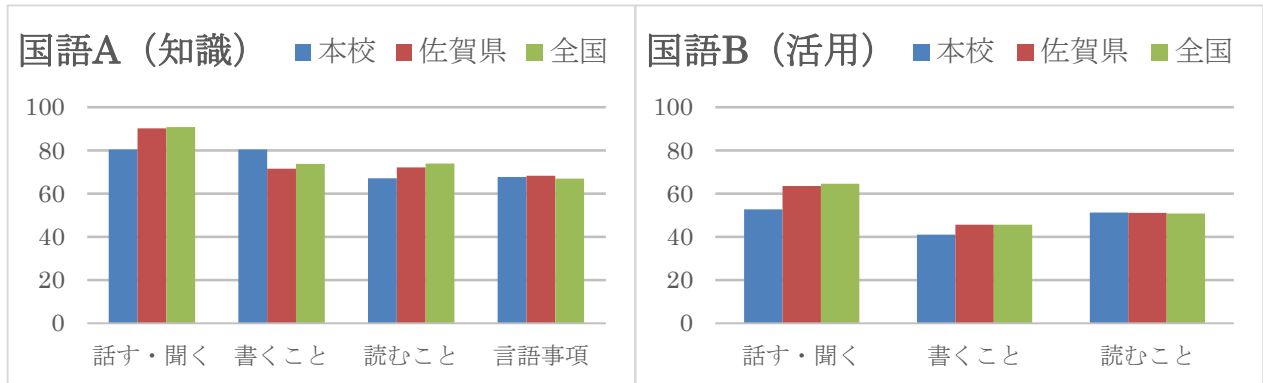
全国学力・学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学、理科に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご覧ください。

## ■ 調査結果及び考察

### 1 国語

#### (1) 結果

#### 全国正答率との比較



国語Aでは、「書くこと」の領域で、県・全国平均を大きく上回った。国語A、国語Bともに「話すこと・聞くこと」に関しては県・全国平均を下回っている。

#### (2) 成果と課題

##### 話す・聞く

・伝えたいことを筋道立てて話したり、話し合いの場で質問の意図を捉えたりする問題の正答率が低かった。

##### 書く

・文章構成の効果を考えて書く問題の正答率が高かった。複数の条件(構成、内容、言葉、字数等)に合わせて書く問題の正答率が低かった。複数の内容を関係付けながら自分の考えを具体的に書く問題では、書いてはいるものの正答の条件を満たしておらず、誤答となるものが多かった。

##### 読む

・登場人物の心情について、情景描写を基に捉える問題は正答率が高かった。一方、目的に応じて必要な情報を捉える問題の正答率が低かった。また、目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかく問題の無回答率が目立った。

##### 言語事項

・漢字の読み書きや、ことわざの意味を問う問題の正答率は、ほぼ県平均である。スキルタイムや宿題の効果が表れていると分析する。今後は、自分の思いや考えを的確に述べるための語彙力をつける必要がある。

#### (3) 学力向上のための取り組み

##### 【学校では】

- 全教科の授業や全教育活動の中で、根拠をもとに書いたり条件に合うように答えたりする場を多く取り入れます。また、意見交流する場を数多く設定し、相手の話の主旨を正確に捉え、自分の意見を表現できる力の習得をめざします。
- 語彙力を高め、情報を選択する力をつけるために、さらに学校図書館の活用を促します。
- 自分の考えをノートに書き表す場面では、相手意識目的意識をもたせ、より分かりやすく考えをまとめる力の習得をめざします。

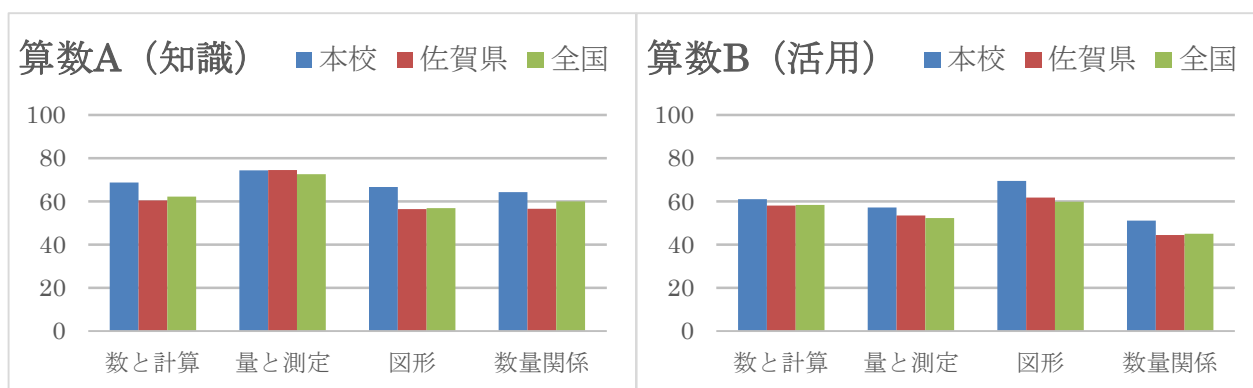
##### 【ご家庭では】

- 読書の習慣をつけましょう。語彙力を高め知識の幅を広げることができます。ご家庭で一緒に本を読む姿が見られるといいですね。
- お子さんとの会話を楽しみましょう。共感したり、互いの考えを交流したりしましょう。
- 音読を毎日聞いてあげましょう。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上につながります。

## 2 算数

### (1) 結果

### 全国正答率との比較



基礎的な知識を問うA問題、活用力を問うB問題ともに、全国平均を上回っている。5年生までの学習の積み重ねの成果である。しかし、B問題の記述式問題には課題も見られた。筋道を立て、適切に記述する力を身に付けさせる必要がある。

### (2) 成果と課題

#### 数と計算

・どの問題も正答率が高かった。小数の除法の意味については、全国平均を大きく上回っていた。しかし、生活場面と結び付いたB問題においては、正答率がやや低かった。長い問題文を根気強く読むことに苦手意識をもっていることがうかがえる。

#### 量と測定

・単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味を問う問題の正答率が高かった。分度器の読み方を問う問題の正答率は、平均 とほぼ同じである。

#### 図形

・図形領域は、特に正答率が高かった。

#### 数量関係

・グラフの読み方や意味を問う問題の正答率が高かった。一方、示された情報を解釈し、条件に合う時間を求める問題に正答率が低かった。資料の意味を理解し、複数の条件をもとに考える力をつける必要がある。

### (3) 学力向上のための取り組み

#### 【学校では】

- 今年度も、朝のスキルタイムで、基礎・基本の四則計算の定着をめざします。
- 授業では、一人でじっくり考える場、友だちと意見を交流する場を多く取り入れ、考えを深める学習活動を全学級で実践します。また、日常場面でどう活用できるか、前の算数の学習をどう生かすことができるかを考えさせる授業を行います。
- ICT 機器の利活用、TT少人数指導、ノートチェック、プリント、ドリル、家庭への課題など、日々の指導の中で個々のつまづきを早期に見つけ、補充指導に努めます。

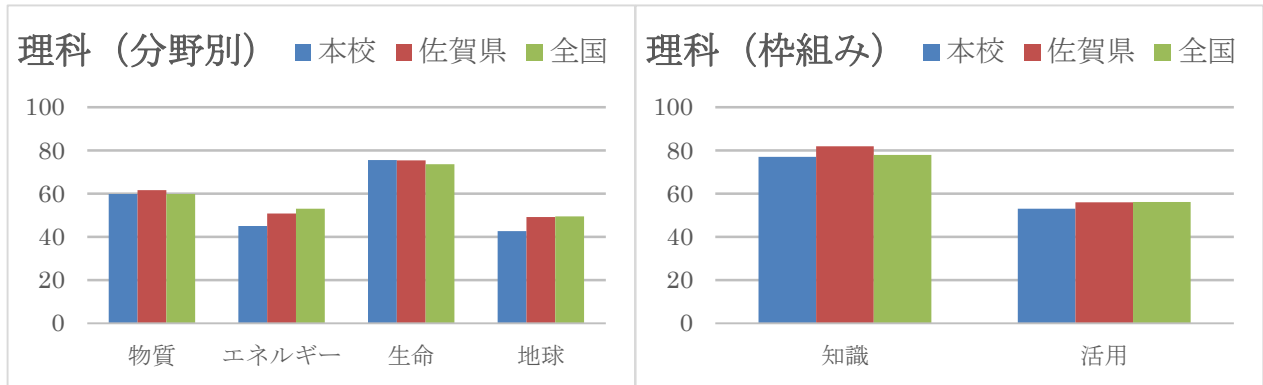
#### 【ご家庭では】

- お子さんが今何を学習しているのか、理解できているのか、問題を解くのにどれくらい時間がかかっているのかを知るために、ドリルやプリント等の宿題・テストに目を通しましょう。そして、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてあげましょう。
- 算数好きにするには、「習ったことが生活の中で使えて便利だな。おもしろいな。」という経験をさせるのが一番です。ご家庭でも生活場面で算数を使ってみましょう。

### 3 理科

#### (1) 結果

#### 全国正答率との比較



基礎的な知識を問う問題も活用力を問う問題も、全国平均より若干低い。A区分では「エネルギー」、B区分では「地球」に課題がある。問題形式では、記述式に課題がある。

#### (2) 成果と課題

##### A区分(物質・エネルギー)

- ・食塩水を溶かしても全体の重さは変わらないという知識を問題に生かすことができている。しかし、実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述する問題の正答率が低かった。
- ・電気回路に関する問題の正答率が低かった。

##### B区分(生命・地球)

- ・人の腕のつくりに関する問題の正答率が高かった。一方、流れる水のはたらきに関する問題の正答率が低かった。特に実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述する問題は正答率が低く、無回答率も高かった。これまでの実験結果をもとに結果を予想すること、変えなければならぬ条件は何かを考え実験を計画することが必要である。

#### (3) 学力向上のための取り組み

##### 【学校では】

- 実験や観察を充実させ、環境の整備を推進します。
- 理科の学習で問題解決を通して明らかになったことを日常生活に当てはめて考えるようにします。学習で学んだことと実生活との関連を図ることを目指します。
- 授業では、「変える条件」と「変えない条件」に分けるなど条件を整理して実験を計画できるようにします。また、実験結果などのデータをまとめた表やグラフから傾向を捉えて考察し、根拠や理由を示しながら自分の考えを記述できるようにします。

##### 【ご家庭では】

- 植物、月や太陽、電気など身近なものについて対話をしましょう。ぜひ、子どもさんと一緒に観察したり、本やインターネットで調べたりしてください。
- お父さんが理科的なことに疑問や興味・関心をもったときに、とことん付き合う大人や家族がいることは、理科好きな子を育てることにつながります。

#### 4 生活習慣や学習習慣に関する調査

##### (1) 結果

##### 《生活習慣について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べている。(どちらかといえばしているも含む)	90.3	94.6
毎日、同じくらいの時刻に寝ている。(どちらかといえばしているも含む)	58.5	77.0
毎日、同じくらいの時刻に起きている。(どちらかといえばしているも含む)	68.3	88.8

ご家庭の協力のもと、朝ごはんの生活リズムは概ねできているようである。しかし、就寝に関しては課題が見られる。不登校傾向は見られないものの、今後も「生活パワーアップ週間」の取組などで、生活習慣の向上を目指す必要がある。

##### 《家庭学習の様子》

調査の項目	本校 %	全国平均 %
家で、自分で計画を立てて勉強をしている。(どちらかといえばしているも含む)	53.7	67.6
家で、学校の宿題をしている。(どちらかといえばしているも含む)	97.6	97.1
家で、学校の授業の予習・復習をしている。(どちらかといえばしているも含む)	43.9	62.6
予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習をしている。(どちらかといえばしているも含む)	58.5	69.9
平日2時間以上勉強している。(塾なども含む)	12.2	29.3
平日1～2時間勉強している。(塾なども含む)	41.5	36.9
平日0～1時間勉強している。(塾なども含む)	46.3	33.8
平日1時間以上読書をしている。(授業時間以外)	7.3	19.3
平日10分以上読書をしている。(授業時間以外)	46.3	46.9
平日0～10分読書をしている。(授業時間以外)	46.4	33.6

学習時間は、約54%の児童が1時間以上と答えているものの、1時間未満の児童も約46%おり個人差が見られる。予習・復習についても個々の意識に差があり、これが学習時間の差に直結していると思われる。

「自学がんばる週間」を活用しながら、家庭学習の内容や充実、方法の工夫を図るとともに、主体的に家庭学習に臨む態度を育てていく。読書についても、習慣化している子どもの割合が低い結果となった。家庭での時間の使い方を考えさせるとともに、読書の楽しさを味わわせる取組を充実させていく。

##### (2) 改善に向けての取り組み

###### 【学校では】

- 毎日、「音読」「漢字の書き取り」「プリントやドリル」を基本に宿題を出します。また、年に4回「自学がんばる週間」を設け、全校で取り組みます。手本になる自学ノートを掲示したり、放送等で称賛したりしながら、学校全体の機運を高めていきます。
- 「宿題」が、「やらされている」ものではなく「やりたい」ものとなるよう、宿題の意義を話し、内容や方法を工夫することで、児童の意識の変換を図ります。
- 「生活パワーアップ週間」を利用して、よりよい生活習慣と家庭学習の習慣を身に付けさせることを目指します。結果の分析および公表を通して、学校全体で課題と改善策を共有し、ねらいとする子どもの姿を目指していきます。

###### 【ご家庭では】

- 食事の時間を調整する、学習中はテレビを消すなど、学習に臨むための環境を整えてあげてください。自学では、自分で課題を見つける声かけをすることが学習の意欲につながります。
- 今年度は「家読」を充実させています。お子さんと読書の時間を共有されるといいですね。
- 「手は離しても、目は離さない」子どもたちの成長や様子に応じて、関わり方を変化させましょう。小さな努力や成長を大きく評価してあげてください。